

# 大新斗争へ向けて リヌよりのアピール

大新編集員に与えられたる・1021分は、編集部内部の対立の背後で策動する理事会・評議員会の暴力的な如きあらゆるあり、大学当局の基本的な姿勢としてそこに集約することができる。その意図するものは大学の正常化・秩序化でありイデオロギー管理を通じて大学幻想を植えつけ、大学を知約生産の場におとしめるものとしてある。我々明大生にとってそれは徹底抗撃という形態をもって係る以外ないであろう。しかし新聞編集の決議確が我々学生側の側を下ったとしても、それは単に当局が管理することを学生側に委託するという形態をとり、本質的矛盾は何ら止揚されないものとしてある。

我々の女解放斗争は1021以来ルジョ・マスコミによってわいよう化され、過去現在に於て、マスコミを通じて本質はゆがめられたまま、より体制的なインテリヤ大衆に嘲笑され切りきざまわつてきたのである。我々は女解放斗争に於てその怒りを外へ向けてぶつけるとともに、我々の闘いのさらなる進展の一段階として、闘うべき必然性を確認する。

大新斗争に主体的にかかわる個々が体制的ジャーナリズム幻想をうちくばき、階級階級の中で全ての斗争主体に解放し、新たな交通形態の場として日々新編されるべきものとしてあろう。それなくして、我々はいかなるジャーナリズムともジャーナリスティックな対応も許可しはできない。

リヌ戦線組人は学生リヌとしての立場性の中で、大新斗争に係りつつも、大学新聞編集に係るすべての斗争主体の在り方と、ジャーナリズムの社会的意味の徹底的に追求せねばならない。これにおいて相互の緊張関係を獲得しつつ大新斗争の質的深化と普遍性を追求したいと考える。

2.1021分析粉碎  
評議員会解体・理事会解体  
参与会答申粉碎  
学園の秩序化・管理化粉碎  
作られたジャーナリズム幻想粉碎  
大学幻想粉碎  
おんな解放斗争勝利

明大リヌ戦線(有志)

7.10, 1971